

令和4年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢商業高等学校

No. 1

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	評価・集計結果	後期の成果と課題、次年度へ向けた改善案
1 新学習指導要領の趣旨を活かした授業実践に努めるとともに、主体的・対話的で深い学びの実現と、資格取得に向けたスキルの習得とを両立した授業実践に取り組む。	① 生徒の主体性を引き出し、学力の向上につなげるため、今年度は特に、ICTの有効な活用方法を考え、授業において実践する。	教員が授業でICTを有効に活用していると回答した生徒の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価：【 C 】 生徒対象のアンケート結果 肯定的回答の割合：全学年68% 1年 73% 2年 66% 3年 65%	生徒の肯定的回答は、昨年度とほぼ同程度の68%であった。教員対象のアンケートも同様の傾向で、ICT活用への意識は高まっていない。しかしながら、研究授業においては、ICTの有効活用に積極的に挑戦する授業が見られた。 次年度は、校内研修会や研究授業、互見授業等を利用して活用方法の共有化を進めていきたい。
	② 生徒の知識・技能や思考力・判断力・表現力、学習への積極性を高めるための評価を工夫・実践する。	生徒の知識・技能、思考力・判断力・表現力、学習への積極性を図るための評価方法を工夫・実践した教員の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価：【 A 】 教員対象のアンケート結果 肯定的回答の割合：86%	今年度新たに導入された観点別学習状況評価において、評価材料、評価方法を試行錯誤しながら蓄積しているところである。引き続き、生徒の学力を多面的・多角的に評価し、各観点を偏りなく評価することができるよう工夫、改善を進めていきたい。
	③ 授業を中心に学校生活全般を通じて、表現する力・伝える力を向上させ、社会の即戦力として活躍できる人材を育成する。	授業の学習活動の中で「表現する力・伝える力が向上した」と感じる生徒の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価：【 A 】 生徒対象のアンケート結果 肯定的回答の割合：全学年81% 1年 85% 2年 74% 3年 84%	肯定的回答が81%で昨年度の79%からやや上昇した。今後、さらなる高評価が得られるよう、授業における評価場面を工夫するほか、部活動や金商デパートなどの教育活動をその応用の場として設定し、表現力・伝える力の育成に努めていきたい。
	④ 各種検定試験の取組を通して学習意欲を高める。商業科と情報交換しながら、現状把握を定期的に行い、授業・補習・課題をセットにした取組を行う。	3年次の全商検定1級3種目の取得者が、 A 160人以上である B 140人以上である C 120人以上である D 120人未満である	評価：【 C 】 132人	昨年度の取得者数と比較すると、約30人の減少となった。今年度の3年生は、入学直後に2か月間の休校となった学年で、基礎基本を固めるべき時期に満足な指導を行えなかったことが、その要因の一つである。 次年度からは、1年次の1学期に、商業高校での学びの意義を生徒が理解できるように丁寧な取組を行い、検定受検へ向けての意欲の喚起につなげていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	ICT機器の操作は生徒の方が熟達している。もっと自由に使用させてもいいのではないかと。ICTはあくまでツールであり教師の評価がその点だけで決まらないようにすることも大切にしたい。			
学校関係者評価委員の評価結果を踏まえた今後の改善方針	クロムブックの利用目的は、生徒の主体性を引き出し学力向上につなげることにあり、教員が使用するだけでなく、生徒自身が学習目的で自由に利用することも重要である。情報モラル教育の視点も踏まえながら、どこまで生徒の自主性に委ねるか検討していきたい。			

令和4年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢商業高等学校

No. 2

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	評価・集計結果	後期の成果と課題、次年度へ向けた改善案
2 ビジネスマナー教育、実践教育、国際理解教育、おもてなし教育の更なる充実に取り組む。	① 相手の顔と目を見てさわやかな、相手に伝わる挨拶を日常的に実践し、社会に貢献できる生徒の育成に取り組む。	生徒が、「相手の目を見て、さわやかな気持ちのこもった」挨拶をしていると評価する割合が、生徒、保護者、教職員のいずれにおいても、 A 85%以上である B 75%以上である C 70%以上である D 70%未満である	評価：【 B 】 生徒・保護者・教職員対象のアンケート結果 肯定的回答の割合： 生徒 88% 保護者 94% 教職員 75%	肯定的評価は生徒・保護者・教職員全体でみると、8割を超える結果であったが、常に生徒と接している教職員の評価は75%にとどまった。 生徒の自由記述には「挨拶の向上・強化をはかりたい」等の意見が多数見受けられるので、生徒会とも連携して、どうすれば「質」を意識した挨拶ができるようになるかについて協議し、全体に広めていきたい。
	② 生徒指導が主体となり、公安委員・生徒会執行部と協力しながら遅刻0の徹底を推進していく。	遅刻0の日が年間を通じて、 A 130日以上である B 110日以上である C 90日以上である D 90日未満である	評価：【 B 】 年間111日	昨年度の反省を踏まえ今年度は、担任と協力して保護者等への連絡を徹底した成果として111日となった。次年度も担任と連絡を密にとり130日を目標に指導したい。生徒には「報・連・相の大切さ」、「時間厳守の大切さ」を啓発していきたい。また、「基本的生活習慣の確立」を集会等を通して指導していきたい。
	③ マナー教育を含めた総合的な商業教育実践の場となっている金商デパートに積極的に取り組む。	金商デパートにおいて、商業で学んだ知識や技術を生かせたと感じる生徒の割合が、 A 95%以上である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である	評価：【 B 】 生徒対象のアンケート結果 肯定的回答の割合：全学年 92% 1年 93% 2年 89% 3年 93%	生徒の肯定的評価は90%超となったが、昨年度の96%に比べるとやや低下した。今年度の金商デパートは、コロナ前に近い形で実施することができたが、昨年度から内容や規模を広げたために準備不足のまま当日を迎えた生徒が多かったためと考えられる。 次年度は、内容を整理し、段階を踏んで準備していく時間を確保することで、生徒が生かすべき知識や技術を自覚して当日を迎えられるようにしたい。
	④ 基礎的な英語を使つての実践的なプロダクティブ・スキル(話す力・書く力)に重点を置いたコミュニケーション能力の育成に取り組む。	生徒の自己評価アンケートで、前述の能力が「以前より向上した」と感じる生徒の割合が、 A 80%以上である B 60%以上～80%未満である C 40%以上～60%未満である。 D 40%未満である	評価：【 B 】 生徒対象のアンケート結果 肯定的回答の割合：全学年 72%	肯定的評価は70%を超え、昨年度の64%から向上した。シンガポールとのリモート研修や、アクティブ・イングリッシュなどの授業で、実践的な英会話を経験した生徒たちの評価が数値を押し上げている。 ただし、それらの経験者は限定的なので、次年度は、全員が履修する授業の改善も行い、80%超を目指したい。
学校関係者評価委員会の評価	「金商デパート」関係の評価は高いが、売り上げなどの数字だけの評価に終わらないようにして欲しい。英語教育については会話力の醸成に力を注いでほしい。			
学校関係者評価委員の評価結果を踏まえた今後の改善方策	「金商デパート」を、生徒が授業等で学んだ知識や技術を応用する場、主体性や創意工夫を発揮する場として機能させるための方策を具体化した。英語教育については生徒のモチベーションが高まる授業構成を考えていきたい。			

令和4年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	評価・集計結果	後期の成果と課題、次年度へ向けた改善案
3 生徒の希望する進路実現へ向けて、各学年に応じた計画的なキャリア教育に取り組む。	① 就職希望者に対して、企業ならびに同窓生と連携を深め、各種ガイダンス機能の充実と希望企業への実践的な面接指導を実施し、進路実現を図る。	就職希望者において、ガイダンスや面接指導を通じて希望の職種・業種への進路実現を達成できたという生徒が、 A 95%以上である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である	評価：【 A 】 生徒対象のアンケート結果 肯定的回答の割合：3年 97%	今年度は求人受付件数がコロナ前まで回復し、進路行事も概ね予定どおり実施することができた。求人情報をWebで閲覧できるようにしたことで、企業情報をより調べやすくなった。
	② 進学希望者に対して、ガイダンスや補習を計画的に実施し、早期から志望分野・志望校への進学意識を高める。	進学希望者において、長期的な視点を持って、受験勉強に取り組み、学力を向上させることができたと答えた生徒が、 A 95%以上である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である	評価：【 D 】 生徒対象のアンケート結果 肯定的回答の割合：2・3年 80% 2年 69% 3年 94%	3年生には具体的な事例を示しての情報提供を心がけ、生徒が見通しを持って進路決定し、受験に臨むことができた。一方で、2年生の評価は低かった。次年度は、特に金商デパートや修学旅行等で進路行事の時間を取れない2年生に対し、グループクルームなども活用し、早期の情報提供に努めたい。
	③ 1年生に対して、進路ガイダンスや総合的な探究の時間を通じて、就職や進学についての理解を深めさせ、進路への見通しを持たせる。	進路の実現に向けて、具体的な進路希望が設定できたと答えた生徒が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価：【 B 】 生徒対象のアンケート結果 肯定的回答の割合：1年 78%	進路説明会や分野別ガイダンスなど進路行事は概ね実施できた。 しかし、まだ2割を超える生徒が具体的な進路を設定できていないため、学年団とも連携をとりながら未決定生徒の解消に努めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		就職も進学も生徒はよく健闘している。2年生の進学指導に対する評価が低い。1年次の9月にコース選択する関係で、ガイダンス等の取組が1年次に集中するのはやむをえない。コース選択後も生徒は就職か進学かを迷うので、継続して両方の情報を得られるようにしてほしい。		
学校関係者評価委員の評価結果を踏まえた今後の改善方策		進路指導は3か年を通じて適時的かつ系統的に行う必要がある。総合的な探究の時間とLHの年間計画を一体的にとらえて内容の見直しを行いたい。		

令和4年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢商業高等学校

No.4

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	評価・集計結果	後期の成果と課題、次年度へ向けた改善案
4 心身の健康と豊かな人間性の育成に向けて、部活動、特別活動等の更なる充実に取り組む。	① 運動部の県大会において、優勝を目指す。	県大会でベスト4以上の運動部が、 A 9部以上である B 8部である C 7部である D 7部未満である	評価：【 B 】 8部	今年度の県大会において、男女バレーボール・少林寺拳法が優勝、バドミントン・ハンドボール・ソフトテニスが準優勝、女子バスケット・テニスがベスト4以上の成績を収めることができた。ベスト8で敗退している部活動もあるので次年度に期待する。
	② 文化部・商業部の県大会(総文・新人)において団体優勝が、のべ4競技以上を目指す。	県大会(総文および新人)で団体優勝をする競技が、延べ、 A 5競技以上である B 4競技以上である C 3競技である D 2競技以下である	評価：【 B 】 4競技	高文連商業部競技大会の総文・新人において、珠算、電卓、ワープロの競技で団体優勝することができた。また、県高文連大会では競技かるたも団体優勝することができた。 優勝はできなかったものの、団体に北信越大会出場した部活動もあるので次年度に期待する。
	③ 各種委員会・生徒会活動及びボランティア活動等の充実と活性化を目指す。	各種委員会・生徒会活動及びボランティア活動に自主的に取り組んだ生徒の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価：【 B 】 生徒対象のアンケート結果 肯定的回答の割合：全学年 79% 1年 77% 2年 79% 3年 81%	昨年度とほぼ同様の結果となった。新型コロナの影響で地域行事が減少しているため、ボランティア活動の機会自体が少なくなっている。その中でも幾つかの部活動は学校周辺の清掃や除雪など実施している。 次年度には、部活動や委員会を中心に早めの計画を立てるなど今年度以上の実施を促したい。
	④ 校舎内の清掃をきちんと行い、ゴミの分別をきちんと行う意識を全生徒が持ち、自主的に行動することを目指す。	清掃をきちんと行い、ゴミの分別をしっかりとできる生徒の割合が、 A 98%以上である B 95%以上である C 90%以上である D 90%未満である	評価：【 A 】 生徒対象のアンケート結果 肯定的回答の割合：全学年 98% 1年 97% 2年 98% 3年 98%	清掃については、概ね良好に実施されている。一方で監督する教員の不足のためトイレなど場所によって清掃が徹底しない状況が続いている。 ポスト・コロナに向けて、以前のように美化委員会の生徒も参加するゴミ回収体制に戻すことも検討していきたい。
	⑤ 「石川県いじめ防止基本方針」に則り、いじめを起こさない学校づくりに努める。	いじめの未然防止に向け、意識的に行動をしている教員の割合が、 A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	評価：【 A 】 教員対象のアンケート結果 肯定的回答の割合：100%	昨年度に引き続いて、肯定的評価は100%であったが、今後もいじめの発生要因への理解促進に努め、未然防止へ向けて日常的に行動できる教員の増加に繋げていきたい。
5 教職員の多忙化改善に向けて、業務内容の精選や遂行方法の改善に取り組む。	働き方改革の趣旨に則り、業務改善に努め、教職員の時間外勤務時間の短縮に繋げる。	1月当たりの時間外勤務時間が80時間を超える教職員の数が、年間で、延べ、 A 0人である B 1～12人である C 13～24人である D 25人以上である	評価：【 D 】 勤務時間調査 一か月の時間外勤務時間が80時間超の延べ教員数：39人	年間の延べ人数が39名と、D評価の基準をはるかに超える数となった。時間外勤務の内容を見ると、部活動指導・大会引率、コロナ対応、その時期固有の行事に伴うものが多かった。 引き続き、業務の効率化を図るほか、教職員には年間の見通しを持って自己の働き方を計画するよう働きかけたい。
学校関係者評価委員会の評価		運動部の大会成績は昨年度よりも向上している。部活動指導の長さが、大会等での成果につながっている面もある。教員の負担の軽減を図るには、部活動指導員などを増やすことも必要なのではないか。		
学校関係者評価委員の評価結果を踏まえた今後の改善方策		部活動の外部指導員を増やす努力をするほか、一年の見通しをもって時期的にメリハリのある働き方をすることで、年間を通じて業務過多となる教職員が出ないようにしたい。		